

表3 ランチルームを通した食育の幼児年間指導計画（戸手保育園）

<p>料理と食</p>	<p>・食事作りや準備に関わる子ども * 食事の準備や片付けに参加する * 食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気でする</p>	<p>・4月ランチルームに入り、自分の弁当箱のあたるテーブル椅子に座る ・弁当箱を自分で持って席に着く 中一自分でおかずを取りに行く、食後果物皿を片づける 6-ランチボックスを使用</p>	<p>10月中旬一弁当は、袋に入れたままかごに入れて保管、自分で出し入れをする ・食後片付けはすべて自分で行う</p>	<p>・新しいランチボックスに作り替える ・配膳時トレーを使うが汁物は後で2階に分けて運ぶ ・年長が留守の時、ランチの準備をする ・1月一少人数の4歳児を混ぜながら当番を引き継いでいく</p>
<p>・食育の要を伝える ・見て、嗅いで音を聞いて、さわって味見して、料理を作る</p>	<p>・園内で育った野菜を味わう ・器を持ったり、支えてこぼさないように食べようとする ・匂いに気付いて調理室を見たり、話して関心を持つ</p>	<p>・ピーマン、かぼちゃ、にんじん、ジャガイモの皮むき、インゲンの筋とり ・ビュラーを使い皮むきを手伝う ・栽培物を取壊して味わう (ほうれん草団子) (茎のきんぴら) ・自分たちで調理 (スイートポテト) トウモロコシ、スイカを取壊して食べる</p>	<p>・「おいしかった」などの言葉を調理師や栄養士に伝えに行く ・好きなメニューの作り方に関心を持って聞く ・自分の食べたいメニュー作りを試みる ・ランチルーム当番を担任と一緒に正しい準備の流れや内容を見る ・ランチ当番は担任以外のランチリーダー一保育士と共にランチルーム当番を行う</p>	<p>・ほうれん草の種を買いに行き、種まきをする ・夏みかんの砂糖漬けを作り味わう ・さつまいもを取壊し、調理してもらったり ・いまだき増すの気持ちを感じる</p>
<p>・食生活や健康に主体的に関わる子ども * 野菜などの感想、取壊した食材、旬の物や季節感のある食材や料理を食べる ・自然の恵みと働くことの大切さをしり、感謝の気持ちも持って食事をする。 ・すべての命を大切にすることをもち ・身近な動物とふれ合う。自分たちで飼育する</p>	<p>・ランチルームでゆったりと食べることができるよう、着替え室で着替えクラスに戻り午睡をする。・保育士や子どもの動きが大きくならないように動線、声の大きさを意識し静かな雰囲気作り心がける</p>	<p>・20日ダイコン、ゴ-ヤ、きゅうり、トマト 大根、小松菜</p>	<p>・なつみかんの取壊をする ・栽培物を家庭で味わう</p>	<p>・いまだき増すの気持ちを感じる</p>
<p>・食生活や健康に主体的に関わる子ども * 野菜などの感想、取壊した食材、旬の物や季節感のある食材や料理を食べる</p>	<p>・ランチルーム当番について、5月の連休明けまでは担任と一緒に正しい準備の流れや内容を見る。 * ランチルーム当番については、5月の連休明けまでは担任と一緒に正しい準備の流れや内容を見る。</p>	<p>・その流れ ・(5才リーダーが配膳) ・食器の片づけは保育士が行う 月一3歳児の弁当、おかずの配膳なし 10月一3歳児には汁物のみ配膳 11月一ランチルーム終了後片づけ、午睡準備をみんなで行う (床はき、モップかけ、ランチボックスふき、台ふきを洗って干す、布団敷き)</p>	<p>・ランチルーム当番の準備 ・自分でおかずを取りに行く、食後果物皿を片づける 3才お弁当箱、コップ入れ、歯ブラシをランチルームに戻りセットする ランチボックス、台ふきをぬらしてかごにセットする 3歳児の席に弁当とおかず、配膳する。 ノンニユ-を覚える。ランチルーム裏の合図をする * ランチルーム当番については、5月の連休明けまでは担任と一緒に正しい準備の流れや内容を見る。</p>	<p>・ランチルーム当番は担任以外のランチリーダー一保育士と共にランチルーム当番を行う</p>
<p>・食生活や健康に主体的に関わる子ども * 野菜などの感想、取壊した食材、旬の物や季節感のある食材や料理を食べる</p>	<p>・ランチルーム当番について、5月の連休明けまでは担任と一緒に正しい準備の流れや内容を見る。 * ランチルーム当番については、5月の連休明けまでは担任と一緒に正しい準備の流れや内容を見る。</p>	<p>・その流れ ・(5才リーダーが配膳) ・食器の片づけは保育士が行う 月一3歳児の弁当、おかずの配膳なし 10月一3歳児には汁物のみ配膳 11月一ランチルーム終了後片づけ、午睡準備をみんなで行う (床はき、モップかけ、ランチボックスふき、台ふきを洗って干す、布団敷き)</p>	<p>・ランチルーム当番は担任以外のランチリーダー一保育士と共にランチルーム当番を行う</p>	<p>・ランチルーム当番は担任以外のランチリーダー一保育士と共にランチルーム当番を行う</p>

表4 ランチルームを通した食育の幼児組年間指導計画（戸手保育園）

食と文化	<ul style="list-style-type: none"> - 食を味わって食む子ども ・食卓がきれいにする ・気持ちよく食事をすすめるマナーを身につける ・郷土料理に触れ、伝統的な食事を体験する ・伝統的な食品加工に出会い味わう ・箸などの食具が上手に使える ・外国の人々など様々な文化に興味を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食前後の挨拶をする ・器に手を拭き足り、もって食べる ・スプーン、フォークを3点もちで使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・中甸一箸への移行（スプーン等と併用で配膳台から自分で選ぶ） ・同じ食材を色々な形態や、加工方法で調理してもらい楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 11月一家庭から自分の箸を持つくる（27日） ・お皿の中身をきれいに集めたい ・器を片づけるときは残飯を専用容器に入れて片付ける ・友達と楽しくおしゃべりしながらも静かに食べようとする ・口の中に物が入っているおしゃべりはしないことが分っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・箸を3点持ちで使う。 ・箸をつかいつまんだり、きつたりする ・自分で器の中もきれいにしたい ・食事の席を済ませた後、おしゃべりを楽しみながらも一定時間内に食べ終える
配 慮		<ul style="list-style-type: none"> ・ランチルーム当番の「今日の一言」や、絵カードや保育士の合図で意識を促す ・「いただきます」の感謝の気持ちを大人が示し、会話を通し伝える ・大人が共に食事をし、使い方を見せたり異年齢の姿に関心がいよいよよくなるように働きかける 			

家庭との連携

- ・掲示やお便りで伝えると共に、直接、見たり、体験することで、より食に関心を持ってもらえるよう保育参加を積極的に呼びかけ共に子育てが進められるようにしていく。

1-1-3. 地域の食物の生産者・流通業者等との連携

食物の生産者・流通業者等のフードシステムとの連携を重視したことも、モデル園における食育実践の代表的なものであった。

例えば、食物の生産者との連携では、相模原市の2園が地域の農家に依頼し、畑の一部を提供してもらいながらサツマイモ栽培に取り組んだ。これにより、子どもはサツマイモの苗植えから体験できるようになった。サツマイモの生長過程を随時観察できる体制もつくり、子どもへの説明の際には、保育士ではなく、野菜の生産者から話をしてもらうようにした。また、地域ボランティアとして生活技術指導士となっている農家を招き、地場の特産であるオクラ・スイカなどの実や花を紹介してもらった。市の食生活推進団体「わかな会」とも連携し、在所児の親子料理教室への参加を促したり、園内でうどんづくりの実演も行った。

さらに、流通業者・小売業者との連携では、上矢部保育園が徒歩圏内にあるパン屋と連携し、子どもの実態に即したパンの提供を図った。上作延保育園では近隣の豆腐屋、八百屋と連携し、子どもの買物の受入や、店舗内部の見学する機会なども設けた。

こうした取り組みを通して、子どもは食材を生産、販売する過程を身近に感じ、食への関心を広げた。また、主体的に食事に臨む姿勢も高まった。給食の提供は食事の受身化につながるケースも多いが、各モデル園は、食物の生産者・流通業者等のフードシステムとの連携を図る中、それを脱する試みを進めたといえよう。また、地域と連携した食育推進のひとつのかたちを示したともいえよう。小学校入学後も、こうした地域の食物の生産者・流通業者等のかかわりを継続・発展させれば、子どものフードシステムへの理解も進むと思われる。

1-1-4. 保護者との連携

保護者との連携を重視したことも、モデル園における食育実践の代表的なものであった。

具体的には、まず、各モデル園は、保護者向けに掲示物やお便りなどを積極的に作成し、保育所での取り組みを定期的に情報発信することに努めた。例えば、文京保育園では月1回「食育情報」を発行し、クラス別の食育実践の様子や子どもの育ちを丁寧に伝えた。また、掲示物をまとめた「食育コーナー」も設け、写真を多用したわかりやすい情報提供を心がけた。掲示物の一部には、職員の朝食紹介や給食レシピも用意された。レシピは随時持ち帰りが可能

なように工夫されていた。さらに、「食育BOX」と命名した意見箱を設置し、家庭での様子を報告してもらったり、アンケート調査を実施し、その結果を積極的に公表しながら保護者との相互交流も深めた。上矢部保育園では、保護者による食育モニターを募集し、家庭での食事の様子を伝えてもらうことも実践された。

また、各モデル園は給食献立のサンプル展示をはじめ、学習会や試食会の実施、園での収穫物の持ち帰りなど、保護者が体験的に食育を理解する機会も積極的に設けた。例えば、戸手保育園では、保護者を園のランチルームに招待し、給食を保護者と共有することを重視した。試食後は保護者間のディスカッションなどを通して、園への要望や意見を聞く機会も増やした。

このように、各モデル園は双方向的なやりとりを進める中、保護者の食育に関する関心を高めた。それが、園と家庭とが連携して子どもの成長・発達を促す姿にながったと思われる。保護者へのアプローチは、とかく啓蒙・啓発が中心になりがちだが、それだけでは連携は生まれにくい。連携とは、対等な関係でこそ成り立つものであり、そのためには情報発信だけにとどまらず、各モデル園が試みた双方向的なやりとりが重要となる。

1-1-5. 未就園の地域の子育て家庭への支援

未就園の地域の子育て家庭への支援も、モデル園における食育実践の代表的な取り組みであった。

具体的には、相模原市の2園では行事として「保育ウィーク」を設け、保育所の給食内容や食をテーマとした体験活動、子どもの食行動の発達過程を紹介した。また、地域の母親グループと公民館が共催する「食育セミナー」を支援し、セミナーを担う母親グループに様々な情報提供を行った。地域の子育て支援センターに職員が出張し、離乳食講座なども実施した。一方、川崎市の2園では、園庭開放、交流保育、保育相談などを積極的に取り組んだ。地域の諸機関とも協力して「子育て通信」を発行し、地域の子育て家庭への情報提供にも努めた。こうした取り組みを通して、各モデル園は地域子育て支援を担うとともに、地域単位で食育を推進する際の拠点として機能しつつある。

なお、各モデル園の多様な取り組みは、主任研究者が管理・運営するホームページにおいて随時紹介された。この取り組みも保育所を拠点とした食育推進に大きな役割を果たした。

1-2. 保育所の職員意識の変容

食育プログラム、及びそれに基づく食育実践の妥当性・連動性を検討する上で、その担い手となる保育所職員の食育に対する意識の持ち方は見逃せない課題となる。そこで、平成18年度6月と平成19年2月の2回、食育プログラムの開発とその評価方法の検討を進める4つのモデル園を含めた計6園の保育所職員を対象に、食育プログラム開始時と実施後の認識の実態を調査し、その相違を検討した。(詳細は、平成18・19年度総括・分担研究報告書参照)。

1-2-1. 食育実践に関する期待度

食育実践に関する期待度を示す項目である「1. 食育の計画作成上の職員連携」「2. 食育実践上の職員連携」「3. 食育の評価実施上の職員連携」「4. 保育計画に連動した食育計画の作成」「5. 指導計画に連動した食育計画の作成」「6. 保育の評価に連動した食育評価の作成」の6項目のうち、食育プログラム実施後において、「1. 食育の計画作成上の職員連携」を除いて、4つのモデル園の方が、2つの対照園よりも期待度が高かった。

特に、実践に最も身近な「2. 食育実践上の職員連携」はモデル園90.1%に対し、対照園は83.4%。「5. 指導計画に連動した食育計画の作成」はモデル園が91.0%に対し、対照園は73.9%と、モデル園の職員の方が高い期待度を示している。また、開始時の調査で最も不安が見られた「6. 保育の評価に連動した食育評価の作成」についても、モデル園の期待度が83.1%であるのに対し、対照園は68.2%にとどまっている。これは、モデル園が独自に取り組んだ子ども一人ひとりの評価票作成が自信につながっていると見られる。

こうした意識の差は、モデル園が園全体で食育を自覚的に取り組み、その成果を基本的な計画である保育計画や、具体的な計画である指導計画に関連させながら食育の計画書としてまとめてきたこと。また、モデル園が子どもの成長を評価票に記載するなど先進的な取り組みを積み重ねてきたためであろう。

1-2-2. 食育実践の実績と今後の工夫

食育実践の実績と今後の工夫についても、モデル園の方が内容を幅広く捉え、取り組もうとしていることもわかった。

例えば、「保育所で実施すべき食育へのイメージ」については、カテゴリー化できた内容は27項目であり、計336件の回答が得られたが、モデル園は27

項目全てに回答がなされたが、対照園は16項目に過ぎなかった。そして、モデル園では「雰囲気・環境づくり」を始め、「食事準備へのかかわり」「ランチルーム設置」など、モデル園が自覚的に取り組んできたランチルームにかかわる内容が、食育内容の幅を広げていることがわかった。少数意見だが「食品流通への気づき」「他園との情報交換」など、子ども、そして大人の双方に対して、意欲的な取り組みをイメージする傾向も見られた。

また、食育実践の中核をなす「食事時間中の指導・援助」については、カテゴリー化できた内容は25項目であり、計286件の回答が得られたが、モデル園は25項目全てに回答がなされたが、対照園は17項目に過ぎなかった。双方、1位が「食事マナー指導」であることは変わらないが、モデル園では続いて「楽しく・意欲的に食べる」「雰囲気・環境づくり」「個人差・発達差の考慮」などの取り組みがあげられたが、対照園では「栄養指導」「雰囲気・環境づくり」「偏食指導」であった。モデル園の方が、より子ども主体の実践を展開しようと心がけていることが伺われる。

さらに、モデル園の「食事時間中の指導・援助」には「会食・人間関係づくり」「(大人が)一緒に食べ、手本となる」「異年齢交流」など、他者とのかかわりを自覚的に実践する傾向も見られた。他者とのかかわりは、食事そのものを楽しいものにすることはもちろん、他者の姿を見てまねる(学ぶ)という面も含まれている。食事中、幼い子どもにしつけない事柄は多々あるが、それを保育者からの指示命令といった直接的なアプローチだけで進めることなく、他者とのかかわりを通じた観察学習も活用しようということだろう。モデル園ならではの視点の深まりを示すものといえよう。

以上、食育実践に関する期待度、食育実践の実績と今後の工夫の双方にわたり、食育プログラムを実施した後、モデル園は対照園に比べ、職員の意識に高まりが見られた。

食育プログラムを保育の計画と連動して作成することはもちろん重要だが、文言を変えるだけで実践が充実するわけではない。やはり、実践にあたる職員の意識自体が変わらなければ、食育実践の質も向上しない。食育が保育同様、子どもと職員とが共に生活する中で展開される限り、実践の担い手となる職員の意識が高まることは重要である。モデル園はその成果を如実に現していたと捉えられる。

1-3. 子どもの成長度

食育プログラムの妥当性は、その実践の充実度によって図られるべきものである。そして、実践の充実度は、子どもの成長・発達が適切に図られた否かによって捉えられるべきものである。

この点について、本分担研究では、平成18年度末から平成19年度にかけて食育プログラムの開発を進める4つのモデル園を対象に、食育に関する個人別の指導の記録として、表5～6に示した児童票を導入し、子どもの成長・発達の度合いを把握し、食育目標の達成度を考察することを試みた。児童票の作成にあたっては、幼稚園にて記載が義務づけられている児童等の学習の状況を記録した書類である『幼稚園幼児指導要録』のうち、「指導に関する記録」として文部科学省が示している一般的な様式例を参考にした。子どもの成長・発達を食育の側面から捉える視点である「ねらい」については、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』に示されている発達過程区分ごとの「ねらい」や「内容」を掲げることとした。

こうした児童票への記入を、平成18年度末に1度試行した後、モデル園としての取り組みの最終年度である平成19年度に、入園・進級当初の姿と年度修了間近の姿を対象に2度実施した。なお、対象となった園児数は、平成18年度が479人であった。（詳細は、平成19年度総括・分担研究報告書参照）。

1-3-1. 3歳未満児の状況

6か月から1歳3か月未満児については、モデル園全体として「②お腹がすいたら、泣く、または、喃語によって、乳や食べものを催促する」と、「④ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ」の達成率は85.7%であった。次いで、「①よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う」が71.4%であり、この3点のねらいについては、概ね達成が図られたといえる。ただ、「③いろいろな食べものに関心を持ち、自分で進んで食べものを持って食べようとする」は57.1%であり、半数近い子どもに著しい向上が見られなかった。食欲や保育者との関係等については向上が図られたが、食べものの幅を広げたり、自分の力で食べようとする姿勢に関しては、個人差も大きかったということになる。

次に、1歳3か月から2歳未満児については、「②いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って自分から意欲的に食べようとする」の81.2%を筆頭に、次い

で「①よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ」と④楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ」が78.3%、「③食事の前後や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいになった快さを感じる」が75.4%となっていた。4つのねらいとも、概ね達成が図られた。特に、6か月から1歳3か月未満児において課題として残されていた食べものの幅を広げたり、自分の力で食べようとする姿勢の発達を見る「ねらい②」が、この時期になって最も達成率が高くなったということは、モデル園の実践上の努力を伺わせるものである。また、6か月から1歳3か月未満児と1歳3か月から2歳未満児を対象とする保育は、0歳児クラスと1歳児クラスの違いにもつながる。その意味で、食べものの幅を広げたり、自分の力で食べようとする姿勢を促す食育は、1歳児クラスになって、より本格化する傾向が強かったといえる。

次に、2歳児については、「①よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ」の55.3%を筆頭に、「②食べものに関心を持ち、自分で進んでスプーン、フォーク、箸などを使って食べようとする」が54.3%、「⑥保育士を仲立ちとして、友達とともに食事を進めることの喜びを味わう」が52.1%と続く。この3つのねらいまでが半数を超える達成率を示しており、他は決して十分とはいえない達成率となっていた。

達成率が半数を超えた「ねらい①」及び「ねらい②」「ねらい⑥」は、2歳児としての新たな課題性も含みながらも、それ以前の発達過程区分から引き続きの課題として捉えうるものである。その分、達成率も比較的高い割合を示していると考えられる。一方で、2歳児になり、それ以前の段階よりも細分化されたねらいの中には、「③いろいろな食べものを進んで食べる」などのように、食べものの嗜好がはっきりしてくる分、1歳3か月から2歳未満児の時点よりも、達成率が下がっているものも見られた。また、「⑦楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ」や「⑧食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ」のように、新たに加わったねらいについては、この時期では著しい向上を実感するまでは至らなかった。

一般に、成長・発達の変化が著しい0歳児や1歳児の保育は、園あるいはクラス独自の援助内容を示すというよりも、子ども自体の発達の変化に応じた援助が優先される。その意味で、0歳児及び1歳児

の保育は、園あるいはクラス単位で独特の経験内容が設定され、援助が図られることは少ない。しかし、2歳児以降になると、子どもの成長・発達の足並みも揃い始め、クラスとしての保育を進めることも可能になる。そのため、園あるいはクラスの保育者の考え方が顕著に表れ始める。この傾向は食育実践においても変わりはない。「⑤身近な動植物をはじめ、自然事象をよく見たり、触れたりする」や「⑦楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ」といったねらいは、この時期に経験させたい食育内容として、自然とのふりあいや調理員などとの出会いを重視するか否かという価値観の問題に深くかかわるものである。2歳児になり、達成率が下がった項目は、こうした保育者の価値観の相違が現れた結果と見られる。

1-3-2. 3歳以上児の状況

平成19年度内において、3歳以上児に期待される15の食育のねらいは、全て達成率が向上していることがわかった。

このうち、達成率が最も向上したのは、39.4%の伸び率を示した「料理と食①身近な食材を使って、調理を楽しむ」であった。次いで、「食と文化③食習慣、マナーを身につける」が28.1%、「食と健康①できるだけ多くの種類の食べものや料理を味わう」の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ」と「食と人間関係③食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける」が23.6%、「食と人間関係①自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう」23.3%の伸び率で続く。以上が、20%以上の伸び率を示したものであった。

調理保育は、0157問題以来、敬遠されがちな取り組みであったが、モデル園となり、「食べる」とことと「つくる」ことのつながりを大切にしたいと考え、他園に先駆けて取り組んできた成果が現れた結果であろう。また、食事の習慣やマナーの向上、他者と一緒に食べる楽しさや食べものの幅の広がりも、モデル園として、食事時間中の指導・援助の充実ぶりを示すものであった。

一方、年度末間近の時点で達成率が低かったねらいも、年度当初から若干ではあるが向上が見られることもわかった。例えば、年度末間近の時点で最も達成率が低かった「料理と食②食事の準備から後片付けまでの食事づくりに自らかかわり、味や盛りつけなどを考えたり、それを生活に取り入れようとする」も4.0%の伸び率を示している。また、27.1%の

達成率であった「いのち育ちと食②栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみを持ち、すべてのいのちを大切に持つ」も伸び率は14.8%であった。

このように、年度末間近の時点で達成率は低かったねらいも、年度内の援助・指導により、若干の向上は見られた。こうした達成率の低いねらいは、3歳以上児となり、新たな課題として加わったものだが、モデル園なりに、「食と文化」「いのち育ちと食」「料理と食」といった項目を自覚する中、継続的な働きかけをしてきたことがわかる。

以上、モデル園では、概ね食育のねらいは達成できていた。

なお、児童票の結果を園別に見ると、モデル園の間にも達成率に差は見られた。しかし、実践の報告を見聞きする限り、4つのモデル園に数字ほどの差は感じない。したがって、園別の食育のねらいの達成度の差は、子どもの評価に対する判断基準が、園あるいは保育者によって異なっていたためと理解するべきものである。

このことは、今回導入した児童票が、保育者の主観的な判断によって記入されていたことを物語る。このことだけを見ると、児童票の信頼性には疑問も生じよう。しかし、食育に限らず、保育においては、主観的な判断は否定されるべきものではない。なぜなら、保育は子どもと保育者が生活を共にするところに特徴があるからである。保育者は、子どもと一緒に生活しながら、その生活、または、設定する具体的な経験を通して、子どもの成長・発達は促そうとする。保育の一環として展開される乳幼児期の食育も同じである。したがって、食育における子どもの評価も、子どもと生活を共にする保育者だからこそ読み取れる、あるいは感じ取れるものであり、それを無視した把握は困難である。

今後は、こうした主観性を大切にしながら、そのバラつきを無くすため、園あるいは保育者の視点を間主観性のレベルまで引き上げることが課題となる。そのためには、園あるいは保育者の間で計画－実践－評価の全ての保育活動について、常に共通理解を図ることが必要となる。児童票の指標も、こうした努力を踏まえて改善される必要がある。具体的には、実践を詳細に記録し、その事実から食育プログラムのねらいや内容を確認し合ったり、子どもの成長を読み取ることが求められる。

児童票（食育指導に関する記録）

園名 _____ 性別： 男 ・ 女

ID _____

園名	ねらい（食育の観点から発達を促せる視点）※1	発達の状況		平成18年度 (クラスの重点)	平成19年度 (クラスの重点)
		18年度	19年度		
6か月未満児	①よく遊び、よく眠る。 ②お腹がすいたら、泣く。 ③保育士にゆったり抱かれて、乳（母乳・ミルク）を飲む。 ④授乳してくれる人に関心を持つ。 ①よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を吸う。 ②お腹がすいたら、泣く、または、喃語によって、乳や食べものを催促する。 ③いろいろな食べものに関心を持ち、自分で進んで食べものを持って食べようとする。 ④ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ。			(クラスの重点)	(クラスの重点)
6か月～1歳3か月未満児	①よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。 ②いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って自分から意欲的に食べようとする。 ③食事の前様や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいになった快さを感じる。 ④楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ。			(個人の重点)	(個人の重点)
1歳3か月～2歳未満児	①よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。 ②いろいろな食べものに関心を持ち、手づかみ、または、スプーン、フォークなどを使って自分から意欲的に食べようとする。 ③食事の前様や汚れたときは、顔や手を拭き、きれいになった快さを感じる。 ④楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ。				
2歳児	①よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ。 ②食べものに関心を持ち、自分で進んでスプーン、フォーク、箸などを使って食べようとする。 ③いろいろな食べものを進んで食べる。 ④保育士の手助けによって、うがい、手洗いなど、身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする。 ⑤身近な動植物をはじめ、自然現象をよく見たり、触れたりする。 ⑥保育士を仲立ちとして、友達とともに食事を進めることの喜びを味わう。 ⑦楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ。 ⑧食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ。 ⑨保育士を仲立ちとして、友達とともに食事を進め、一緒に食べる楽しさを味わう。				
				指導の重点等※2	指導上参考となる事項※3
					備考

食育に関する記録は1年間の指導の過程とその結果を要約し、次年度の適切な指導に資するための資料としての性格をもつものである。
 ※1 食育指針のねらい及び内容を視点として、1年間の指導の過程を振り返り、その児童の発達の実情から向上が著しいと認められたものを「○印」を記入する。
 ※2 園での食育の計画に基づく発達過程区分ごとの指導の重点及び1年間の指導の過程において当該児童の指導について特に重視してきた点を記入する。
 ※3 園生活を通して全体的、総合的に捉えた児童の発達の姿について記入するとともに、次の年度の指導の要と考えられる配慮事項等について記入する。
 ※4 児童の健康の状況等指導上特に留意する必要がある場合等について記入する。

児童票（食育指導に関する記録）

園名

性別： 男 ・ 女

ID

3歳以上児	食と健康	ねらい（食育の観点から発達を促せる視点）※1	発達の状況		平成18年度	平成19年度
			18年度	19年度	(クラスの重点)	(クラスの重点)
		①できるだけ多くの種類の食べものや料理を味わう。 ②自分の体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事をとろうとする。 ③健康、安全など食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける。			(個人の重点)	(個人の重点)
	食と人間関係	①自分で食事ができること、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう。 ②様々な人々との会食を通して、愛情や信頼感を持つ。 ③食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける。				
	食と文化	①いろいろな料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたりし、様々な文化に気づく。 ②地域で培われた食文化を体験し、郷土への関心を持つ。 ③食習慣、マナーを身につける。				
	いのちの育ちと食	①自然の恵みと働くことの大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう。 ②栽培、飼育、食事などを通して、身近な存在に親しみをもち、すべてのいのちを大切にすることを学ぶ。 ③身近な自然にかかわり、世話をしたりする中で、料理との関係を考え、食材に対する感覚を豊かにする。				
	料理と食	①身近な食材を使って、調理を楽しむ。 ②食事の準備から後片付けまでの食事づくりに自らがかわり、味や盛りつけなどを考えたり、それを生活に取り入れようとする。 ③食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気で作事をする。				
					指導の重点等※2	指導上参考となる事項※3
						備考

食育に関する記録は1年間の指導の過程とその結果を要約し、次年度の適切な指導に資するための資料としての性格をもつものである。
 ※1 食育指針のねらい及び内容を視点として、1年間の指導の過程を振り返り、その児童の発達の実情から向上が著しいと認められるものを「O印」を記入する。
 ※2 園での食育の計画に基づく発達過程区分ごとの指導の重点及び1年間の指導の過程において当該児童の指導について特に重視してきた点を記入する。
 ※3 園生活を通して全体的、総合的に促された児童の発達の姿について記入するとともに、次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入する。

2. 食育モデル園における食育プログラムの実際
保育の一環として食育を位置づけ、一定の実践的成果をあげた食育モデル園は、どのような計画をとりまとめるに至ったか。以下、計画作成の変遷と、とりまとめた計画のうち、実践に最も身近な指導計画を対象に、プログラムの骨子となる食育内容の特徴について考察する。

2-1. モデル園における計画作成の変遷

モデル園としての取り組みを開始する以前、各園は、食育の視点を十分に含んで保育計画及び指導計画が作成している状況ではなかった。(詳細は、平成17年度総括・分担研究報告書参照)

例えば、保育計画の3歳以上児は、『保育所保育指針』に示されている「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」といういわゆる5領域で編成されていたが、そこに『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』に示されている「食と健康」、「食と人間関係」、「食と文化」、「いのちの育ちと食」、「料理と食」の5つの項目がいかにされている形跡は見られなかった。

また、指導計画の一種と見られる食に関する具体的な計画は、食事計画あるいは給食計画という名称からもわかるように、食事の提供あるいは食事の時間帯だけに限定された計画となっており、園生活全体を視野に入れた内容構成にはなっていなかった。食育計画という新たな視点から立案する試みも見られたが、これも、数種ある指導計画のひとつであり、行事計画や保健計画などと同様、ひとつの活動分野に限定した具体的な計画にすぎなかった。

しかし、全職員連携の下、食育を自覚的に取り組む中、モデル園は食育実践の成果と課題を踏まえ、食育の視点を含んだ計画の作成を進めた。そして、平成18年度末では、計画作成の傾向として、保育の計画に食育の計画を融合させるパターンと、保育の計画とは別に食育の計画を作成するパターンの2種が見られた。(詳細は、平成18年度総括・分担研究報告書参照)

そのうち、保育の計画に食育の計画を融合させた園は、上矢部保育園と戸手保育園であった。

上矢部保育園は「保育の一環として食育を捉え、生活や遊びを通して『食を営む力の基礎』を培うよう取り組んでいくことを目指し」ていく中での決断であった。また、戸手保育園は「保育そのものが『食育』というイメージで捉えて、保育計画、指導計画に反映」させることを意図した中での決断であった。

その上で両園は、既存の各年齢の年間指導計画、月案について、食育の視点をふまえた内容に青色のアンダーラインを引く中で、食育を意識した保育実践を展開することを図ったわけである。

これに対して、保育の計画とは別に食育の計画を作成した園は、文京保育園と上作延保育園であった。

このうち文京保育園は、調理員も含めた全職員一人ひとりが食育に関する意識を明確に持つために、あえて保育の計画とは別に食育の計画を作成した。上作延保育園も同様な姿勢であった。

前述した通り、保育所における食育は、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』でも強調されている通り、保育の一環、つまり園生活全体を通して取り組むことが求められている。体験を通して、具体的に物事を理解していく乳幼児期の発達特性を考えれば、当然のことではある。そこが、教科指導を旨とする小学校以上の教育と保育の相違点でもある。

とすれば、保育の計画とは別に食育の計画を作成した文京保育園と上作延保育園の試みは、あまり歓迎すべきものとはいえなかった。しかし、両園があえて保育の計画とは別に食育の計画を作成したのは、両園の職員間で、食育に対するイメージが一律ではないことを自覚したからであった。こうしたズレを放置していたままでは、食育を保育の一環として実践するどころか、職員連携さえも図れない。文京保育園と上作延保育園は、こうした事実にしっかりと向き合う中で、現実的な方策として、保育の計画とは別に食育の計画を作成することを選択したわけである。食育に取り組み始めた園が、理想的な状態に至るための工夫のひとつとして、参考になる試みといえよう。

なお、各モデル園の計画の内容構成だが、保育の計画に食育の計画を融合させた上矢部保育園と戸手保育園は、基本的に5領域に代表される『保育所保育指針』に示された保育内容に含めるかたちで、食育の「ねらい」及び「内容」が設定していた。

これに対して、保育の計画とは別に食育の計画を作成した園のうち、上作延保育園は「栽培・収穫・調理」「活動」「配慮」の3項目から「年間食育活動計画」を立案している。一方、文京保育園の内容構成は、基本的に『保育所保育指針』を踏まえた指導計画の保育内容をそのまま使用している。そのため、食育として取り組むべき活動の計画というよりも、食育に関して期待する子どもの育ちを質的に表現したものとなっている。言い換えれば、上作延保

育園は食育に関する「活動の計画」を特化し、文京保育園は食育に関する「ねらいの計画」を特化したものであった。

ただ、「活動の計画」については、上作延保育園だけでなく、他の3園も作成はしていた。特に、短期的な指導計画となると、より「活動の計画」となる傾向は強い。それだけに、モデル園としての最終年度に向け、長期的な指導計画といえる年間レベルのものではなく、実践に身近な月案レベルの指導計画をどのようなコンセプトで作成するのかが課題となった。この月案が、どういった方向性を持つかによって、食育プログラムと保育との連動性が確保されるか否かも変わってくる。モデル園はこの点を自覚し、最終年度の食育実践の成果を踏まえ、計画のとりまとめを進めたわけである。

2-2. 指導計画に見る食育内容の特徴

モデル園としての最終年度を迎えた平成19年度において、実践に身近な指導計画を食育の視点を含めて作成した結果、平成18年度末同様、保育の計画に食育の計画を融合させるパターンと、保育の計画とは別に食育の計画を作成するパターンの2種が見られた。

ただ、平成18年度末に保育の計画に食育の計画を融合させた上矢部保育園と戸手保育園のうち、表1~4に示した通り、戸手保育園はランチルームに自園の食育実践の特色を見出す中、保育の計画とは別に食育の計画を作成するパターンに移行した。また、保育の計画とは別に食育の計画を作成していた文京保育園と上作延保育園のうち、上作延保育園は意識化のため特化してきた作業を一段落させ、「保育と食育を一体化する」という本来的な実践のあり方に近づけるため、保育の計画に食育の計画を融合させるかたちへと移行した。この結果、平成19年度末においては、保育の計画に食育の計画を融合させるパターンが上矢部保育園と上作延保育園、保育の計画とは別に食育の計画を作成するパターンが文京保育園と戸手保育園となった。

次に、各モデル園が設定した指導計画に見られる内容設定を整理すると、表7のようになる。

これを見ると、まず保育の計画に食育の計画を融合させた上矢部保育園と上作延保育園は、3歳以上児については、表8~9に示す通り、『保育所保育指針』に示された「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」のいわゆる5領域をそのまま設定していた。つまり、3歳以上児については、子どもの発

達を見る視点として設定された5領域の中に食育に関するねらいや内容、指導上の留意点などを溶け込ませ、保育の一貫として食育実践を展開することを構想したわけである。

ただ、上作延保育園は「生活」を「健康」に連動するかたちで項目設定していた。3歳未満児の保育内容として「生活」が位置づけられていることに呼応させ、発達の連続性を考慮した中で、実践を構想したいという意図の現れと捉えられる。また、上矢部保育園は、指導計画に枠取りした「内容」及び「働きかけと配慮」の両面にわたり、食育に関する事項について下線を引くことで、意識化した実践が展開できるような工夫も行っていった。

一方、両園は『保育所保育指針』にて領域設定がなされていない3歳未満児については表10~11に示す通り、独自の内容設定を行った。

上矢部保育園は2歳児については3歳以上児と同様、5領域を用いていたが、0~1歳児に関しては、「食事」「排泄」「睡眠」「遊び」の4項目で設定した。これに対して、上作延保育園は「生活」「遊び」の2項目を設定した。

ちなみに、3歳未満児を「生活」と「遊び」の2項目から設定する発想は、昭和40年に刊行された最初の『保育所保育指針』において、2歳までを「生活」「遊び」の2領域で設定していたことを参考にしたと考えられる。上矢部保育園が3歳未満児のうち、0~1歳児と2歳児の保育内容を区別した背景にも、昭和40年に刊行された最初の『保育所保育指針』の年齢区分の影響見られる。

ただ、上矢部保育園は、上作延保育園が「生活」と括っている内容を、「食事」「排泄」「睡眠」の3項目に細分化して設定している。実際の保育にあたり、代表的かつ具体的な生活行動を内容設定の窓口にすることが、より丁寧に0~1歳児の発達を援助すると判断した結果であろう。保育の計画に食育の計画を融合させた場合、時に食育に関する視点が不明瞭になりがちであるが、細やかに内容設定をすることで、こうした懸念も払拭できると想定される。

次に、保育の計画とは別に食育の計画を作成した文京保育園と戸手保育園を見ると、両園ともに、3歳以上児については、『楽しく食べる子どもに~保育所における食育に関する指針』において、3歳以上児に対して示された「食と健康」「食と人間関係」「食と文化」「いのちの育ちと食」「料理と食」のいわゆる5項目をそのまま設定していた。

ちなみに、5項目とは食と子どもの発達の観点か

ら示された食育内容である。具体的には、心身の健康に関する項目である「食と健康」は、食を通じて、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことである。人とかかわりに関する項目である「食と人間関係」は、食を通じて、他の人々と親しみ支え合うために、自立心を育て、人とかかわる力を養うことである。食の文化に関する項目である「食と文化」は、食を通じて、人々が築き、継承してきた様々な文化を理解し、つくり出す力を養うことである。いのちとかかわりに関する項目である「いのちの育ちと食」は、食を通じて、自らも含めたすべてのいのちを大切にすることを養うことである。料理とかかわりに関する項目である「料理と食」は、食を通じて、素材に目を向け、素材に関わり、素材を調理することに関心を持つ力を養うことである。文京保育園と戸手保育園は、食育の計画を特化して作成する中、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』に示された食育内容を踏襲することが、食育実践の充実に対して有効であると判断したのである。

しかし、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』では3歳未満児については、食育内容を区分したかたちで示していない。それは、3歳未満児の発達の特徴からみて、この時期の子どもたちが未分化な面が多くあり、3歳以上児のよう

に食育内容を明確に区分し、実践を展開することが困難な面が多いからである。そのため、特に食育内容を区分せず、一括して示したわけである。

そこで、文京保育園と戸手保育園は、3歳未満児について独自の工夫を行った。そのうち、戸手保育園は、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』のコンセプトを踏襲し、区分を行わず、一括してねらい等を示すことにした。これに対して文京保育園は、0～1歳児は「食」と「生活」、2歳児については「生活」と「遊び」と、それぞれ2項目から内容設定を行った。このうち、2歳児を「生活」と「遊び」は、前述した昭和40年刊行の『保育所保育指針』を参考にしているが、対象年齢は異なる。文京保育園では、食育に特化した計画を作成する中、「生活」と「遊び」の2つの項目から2歳児における食育の働きかけを構想することが大切だと捉えたわけである。そして、0～1歳児については、食べる行為そのものを想定した項目である「食」の充実と、「食」以外の生活習慣や遊びなどの日常生活における多様な体験が重要と考え、「生活」を設定したわけである。

このように、モデル園は自園の実態に即して計画を作成し、食育実践を進めた。その多様なアイデアは、様々な状況下にある他の園に対しても、参考となるパターンを示したといえよう。

表7 モデル園における食育内容

上矢部保育園		文京保育園			上作延保育園		戸手保育園	
0～1歳児	2～5歳児	0～1歳児	2歳児	3～5歳児	0～2歳児	3～5歳児	0～2歳児	3～5歳児
食事	健康	食	生活	食と健康	生活	健康	区分なし	食と健康
排泄	人間関係			食と人間関係		生活		生活
睡眠	環境	食と文化	遊び	人間関係		環境		料理と食
遊び	言葉	命の育ちと食		遊び	環境	言葉	命の育ちと食	
	表現	料理と食		表現	表現	食と文化		

表8 保育の計画に食育の計画を融合させた幼児組の指導計画例（上作延保育園）

5歳児 らいおん組		4月 保育指導計画					
目 標		行事予定	家庭連絡				
<ul style="list-style-type: none"> ・年長になった喜びを持っていろいろな活動に意欲的に取り組む。 ・春の自然に触れる。 		8日(日) 山本航生誕生日 10日(火) 進級新入を祝う会	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会総会, 保育説明会の出欠確認 ・クラス便り発行 				
項目	ね ら い	活 動	配 慮				
健康 生活	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中でマナーを守り食事をする。 ・生活の仕方を知り、朝夕の準備を自分で行う。 ・戸外遊びを充分に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食器を正しく並べる。 ・交互食べをする。 ・コップ、タオル、歯ブラシの準備、片付けをする。 ・縄、跳び箱、ボール投げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ方を再確認し、自分で気付けるような声かけをしていく。又、給食に使われている食材についても問いかけ、からだとの関係を知らせ、楽しく食事をするようにしていく。 ・親が行う子もいるので、子ども、保護者両方に働きかけ、習慣づけていく。 ・保育者も一緒に体を動かし、楽しんでいく。関心の薄い子にも誘いかけ、少しでも経験できるようにしていく。 				
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な遊びを通して、友達との関わりを広げていく。 ・色々な友達（異年齢）との関わりを持ちながら楽しく遊ぶ。 ・興味を持って当番活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びを楽しむ。 ・遊びや生活の中で関わる機会を持つ。 ・うさぎ、ごみ、配膳テーブル拭き当番 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者も子ども達の遊びに入っていくように心がけ、友達との関わりを広げるきっかけを作っていく。 ・様々な生活の中で関わりを持っていくようにし、どんな遊びをしたか、どんな世話をしたのか等話題にし、関わりあった事を受けとめ、認めるようにしていく。 ・保育者も一緒に行っていく中でやり方を知らせていく。又、生き物を大切に扱う気持ちや愛着に繋がるようにしていく。 				
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・春の自然に触れ、親しみを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩に出掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の草花の名前、木々の芽吹きの様子などに気付くように声をかけたり、草花遊びを楽しんだりして、自然の変化に関心を持つようにしていく。 				
言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な挨拶をする。 ・保育者や友達の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事をする。 ・集会に参加する。 ・話し合いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自然事象の変化に気付いた時は、共感しながら話を聞き、話したい気持ちを大切にしていく。 ・保育者からの挨拶を心がけると共に、子どもの挨拶にはこたえ、気持ち良さを知らせていく。又、返事についても日常の中で大切さに捉えていく。 ・保育者の話を聞く姿勢、態度等、機会を捉えて伝えていく。 				
表現	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒に音楽や歌に合わせ、体を動かして遊ぶ。 ・感じたことを自由に描く、作るなどして、表現を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつりはるがきたんだおじいちゃんのトラックハローはじめまして ・経験画(遠足)、自由画 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や踊りを通して、友達との繋がりが出来るようにしていく。 ・子どもの自由な表現を認め、描いたり作ったりが楽しめるようにしていく。 				
<p>反省 進級後も、子ども達ははりきって過ごし、集団遊びや活動を楽しんでいた。当番活動は中だるみもしたが、じっくり話した事で、子ども達も声をかけ合い、意欲も出てきたと思う。今後は、特にうさぎ当番を保育士も一緒に行いながら、子ども達が考えて動けるように援助していきたい。人間関係では、妹、弟がいる子を中心に、一緒に遊んだり、手伝いをしたり等が良く見られた。意識の薄い子へも、自然な形で少しづつ誘いかけていきたい。仲の良い友達同士でじっくり遊びこんでいるが、そうした中で、あまり相手にされない子もいるので、見守ったり、声をかけたり、必要に応じて全員で話し合ったりなどしていきたい。</p>							
			<table border="1"> <tr> <td>担 任</td> <td>園 長</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	担 任	園 長		
担 任	園 長						

表9 保育の計画に食育の計画を融合させた幼児組の指導計画例（上矢部保育園）

4月指導計画 5歳児	
ねらい	
<ul style="list-style-type: none"> ・進級した喜びを感じながら園生活を楽しむ ・気の合う友だちと関わりながら好きな遊びを楽しむ 	
内 容（子 ども の 姿）	動 き か け と 配 慮（環 境 構 成）
健 康 <ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で体を動かして遊ぶ ・ 自分や友だちの体に興味を持つ ・ 食前、外遊び後の手洗いや食後の歯磨きを忘れずに行おうとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いきり体を動かして遊べるゲーム等を子どもと一緒に楽しむ ・ 一人ひとりが自分の成長を喜んだり、風邪をひいたりしないようにするにはどうしたらいいかを話し合ったりする機会を作る
人 間 関 係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新入児に興味を持ち、様子を見に行ったり、困っている友だちを見つけると手伝ったりする ・ 気の合う友だちと誘い合い、やり慣れた遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入児が困っているのを助ける姿を認め、喜びにつなげていく ・ 個々の子が安心して取り組める遊びを把握し、環境を用意する ・ クラスのみんなで楽しめるゲーム等の場を設定する
環 境 <ul style="list-style-type: none"> ・ 年長になった喜びを感じ、友だちや保育士と楽しく過ごす ・ 当番活動を楽しみにしながら、しようとする ・ 春の自然にふれて遊ぶ中で、開放感を味わう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期待と不安に揺れ動いている子どもの気持ちを受けとめ、個々に合わせて対応をする。 ・ 今まで少しずつ行ってきたことを確認しながら、自分たちでやっという気持ち育てる。 ・ 年長児だけで散歩に出かける等、春の自然に触れる機会を多くとり入れる。
言 葉 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気の合う友だちに自分の思いや考えを話す ・ 保育士や他の職員の読む絵本・紙芝居を最後まで見たり、聞いたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊んでいる様子を見守り、上手く思いが伝えられない子がいたら代弁し、その子の思いを知らせていく ・ 様々な内容の絵本・紙芝居を用意する。集中できない子には個別に対応したりする
表 現 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誕生表作りやこいのぼり作りを楽しむ ・ 季節の歌や誕生会の歌をみんなと一緒にうたう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハサミやクレヨン正しい使い方、片付けの仕方などをもう一度確認していく ・ 今まで歌い慣れていた曲も含め、季節感を感じる曲を準備する
個人別配慮	反省
<p>A…体調を整えながら少しずつ園生活になじめるよう、声かけを細めに行う</p> <p>B…保育士の見えていない所で人の物を取ったり年下の子への強い言動が気になる。個別への働きかけをこまめに行っていく</p> <p>C…保育室からいなくなったり、他児に手を出すことが多い。本児の気持ちの安定をはかる</p> <p>DEF…進級した喜びから落ち着いて集中した遊びが少ない。興味を持つ遊びに誘ってみる</p> <p>G…気持ちに大きな揺れがあり、他児との活動に入れにくいこともある。ゆったりと受容する機会を持つ</p>	<p>どの子も進級した喜びを感じているのが表情や会話の中で伝わってくる。しかし、嬉しい気持ちをおさえきれずに、他児や年下の子へ強い口調で接してみたり、職員の話に耳を傾けられないような様子も多く見られた。個々の気持ちを大切にしつつも、周りにも多くの友だちがいる中で生活していることを意識して欲しい。当番活動も波に乗りはじめてきている。</p>

表 10 保育の計画に食育の計画を融合させた乳児組の指導計画例（上作延保育園）

1歳児 あひる組 4月 保育指導計画

こどもの姿	ねらい	環境設定	行事予定	家庭連絡
進級児は元担任もいるので安定し過ごせるが、後追いや甘えもでてきている。新入児は午前睡眠をとると担任に見守られる中、笑顔で過ごせるようになってきつつある。探索も活発になっている。	・新しい環境に慣れる。 ・見守られながら好きな遊びを楽しむ。	・朝夕の支度をしやすい流れを作る ・マーク、記名などわかりやすくつける ・ままごと、絵本コーナーを作る。	14日・保育説明会	・忘れ物のないよう帰園してもらう。 ・保育説明会の出欠のお知らせ ・クラス便り発刊(紹介他)
項目	こどもの活動	配 慮		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・気温や体調に合わせて衣服調節してもらう ・鼻汁、よだれが出たら拭いてもらう ・水分補給をうける ・眠いときに安心して眠る(新入児) ・保育者の側で安心して眠る ・こぼしながらも、手づかみやスプーンで食べようとする ・おむつがぬれたら換えてもらい気持ち良さを知る ・手足を動かし自分で着脱しようと介助してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内の換気や一人一人の体調を把握したり等健康管理に気を配りながら家庭とも連絡をとりあい気持ちよく過ごせるための配慮を日々していく。 ・月令差や進級・新入の違いにより新環境へなれるまでの個人差もみられるので生活リズムの違いなども考慮し、その子に応じて丁寧にに関わりながら園での生活に慣れていけるようにする。 ・ひとりひとりの好みや食べ方を把握していく。できるだけ同じ保育者がそばにつき気持ちを安定させ食事に向えるようにしていく。 ・知らせてきたり、ぬれた際には手早く交換し「気持ちよくなったね」と言葉をかけ心地良さを感ぜられるようにする。 ・ゆっくりでも自分でやろうとする気持ちを大切に見守りながら介助を求めてきたときに言葉をそえ手助けしていく。 ・不安な気持ちをしっかり受け止める。触れ合い遊びでスキンシップをはかったり顔を見合い手遊びしたり、子ども達の知ってる歌や絵本など楽しい雰囲気作りをしていく。 ・遊びながら何に興味を示すかを観察し少し興味を示した遊びを保育者が楽しく行いながら遊びたい気持ちをひきだしていく。 ・探索活動を見守りながら危険のないよう安全には充分気をつけていく。 ・「〇〇したかったのね」と気持ちをくみ代弁したり手がでそうになったときには、さっと止め言葉で伝えるよう知らせる。 		
遊 び	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者と一緒にいることで安心して過ごす ・園庭、テラスにでて遊ぶ (固定遊具、ボール、コンビカー、追いかっこ他) ・室内で好きな玩具で遊ぶ ・歌ったり絵本をみたり読んでもらう (せなけいこシリーズ、やさしい、くだもの等) ・手遊び、わらべうたを楽しむ (山小屋いっけん、つくしんぼ、キャベツはキャキャキャ等) ・手指を使った遊びを楽しむ 			
反省	<p>(健康面)前半は体調も良く、元気に登園できていた。連休前より下痢での欠席児が入り連休中、体調を崩していた子が多かった。(生活面)環境の変化に戸惑いはあったが進級児は元担任もいる中では好きな遊びをみつけて楽しんだり食事、睡眠と安心して過ごせていた。新入児は低月令だったので午前寝するリズムをとりその後、安定し過ごせるようになってきている。担任との関係や1日の生活リズムをふまえ、新入・進級児、高月・低月令児と分かれての活動、食事などを行う中で担任との信頼関係を築く1ヶ月であった。(遊び)気分転換をかねテラスへでることで安定したり充分探索を楽しんだりしてきていた。後半は庭にもでていった。来月も戸外での探索活動を楽しませていきたい。</p>			

表 11 保育の計画に食育の計画を融合させた乳児組の指導計画例（上矢部保育園）

4 月 指 導 計 画		0, 1 歳 児
ねらい		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい環境に慣れ、機嫌よくあそぶ ・ 一人ひとりの欲求や行動を受け入れ、情緒の安定をはかる 		
内 容（子 ども の 姿）		働 き か け と 配 慮
<p><食事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分から食べ物に手を出そうとしながら、スプーンを近づけると大きな口をあけて食べる</u> ・ 安心できる雰囲気の中で、<u>手づかみやスプーンを使って楽しく食べる</u> <p><排泄></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汚れたオムツを替えてもらい清潔に過ごす ・ 排泄のタイミングがあれば、オマル・便器で排泄する <p><睡眠></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リズムが整わない子は、寝入ってもすぐに目が覚めてしまう ・ 保育士がそばにいと、安心して眠る <p><遊び></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイハイやヨチヨチ歩きで探索行動を楽しむ ・ お座りやうつ伏せ、仰向けでいろいろな玩具を手にしてあそぶ ・ 保育士の歌や手遊びを見たり、聞いたりして楽しむ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おいしいね」「もぐもぐたべようね」と声をかけながら、少しずつ自分で食べる意欲へと誘っていく ・ 自分で食べようとする気持ちを受けとめ、必要に応じて介助する ・ 汚れたオムツはすぐに替えるようにする ・ 一人ひとりのタイミングをみて、トイレに誘うようにする ・ 静かな環境の中で、スキンシップにより気持ちよくゆったりと眠れるようにする ・ ハイハイや伝い歩き、段差登りなど発達に合った活動ができる環境を整える ・ 安全に配慮し、一緒に春の自然の中でのびのびとあそぶ ・ 手遊びなどでこどもとのスキンシップを深める
個 人 別 配 慮		
なまえ	子 ども の 姿	保 育 士 の か か わ り
A	・ 人見知りやこだわりが強く泣いて訴える	・ 特定の保育士が関わるようにし、気持ちの安定を図りながら、新しい環境に慣れるようにする
B	・ お腹がすいたり、眠たくなると甘えてきたり泣いて訴える	・ 甘えの気持ちを受け入れて、安定を図る。アレルギー除去食を準備する（個別）。食事の食べ方や食べた後の様子を観察する
C	・ 眠たくなると泣いて訴える	・ 生活のリズムを整えながら、抱っこ、おんぶ等で受け入れ安定を図る。園の生活のリズムになれる
D	・ 久しぶりの登園で緊張がみられる	・ 視診を十分に行い、体調に留意する
E	・ 物の取り合い時に、かみつが見られる	・ 他児との関わり方を言葉や動作を交えて伝えるとともに、かみつきの行動が出ないように見守る
新入児	・ 母子分離の時に泣いたり、眠たくなったり、お腹がすくと泣いて訴える	・ 抱っこ、おんぶ等で受け入れ、安心して過ごせるようゆったりと関わり、信頼関係を深める
<p>新入児、継続児共に新しい環境になれて、泣き声もだいぶ短くなり、日中は笑顔がたくさん見られたり子どもの声も聞かれるようになった。0歳児と1歳児の活動を分けたり、一人ひとりの生活リズムに合わせて無理なく保育を進めた。また、個々の欲求を受け入れ、おんぶや抱っこで安定を図った。</p>		

E. 結論

以上、モデル園の取り組みを通して、保育と連動した食育実践の成果と、それを推進した食育プログラムの内容設定について考察してきた。その結果、各モデル園が食育の実践内容、職員意識、子どもの成長度の全てにわたって一定の成果が見られたことがわかった。そして、それを支える指導計画の作成においても独自の工夫を行い、園の実態に即した食育内容を設定してきたことを明らかにした。

こうしたモデル園の成果は、計画及び実践のあり方を、園全体で組織的に検討する体制づくりを進めたからこそ実現できたものである。

そのうち、戸手保育園と文京保育園は、食育の推進をプロジェクトとして位置づけた上で、取り組むべき内容別にいくつかのチームを組織した。具体的には、戸手保育園が健康と環境の2つの窓口、文京保育園が乳児ランチ、幼児ランチ、クッキング、掲示・レシピの4つの窓口を掲げた。食育を保育の一環として取り組むためには、食が持つ多面的な機能、あるいは園生活全体を視野に入れた活動設定が不可欠となるが、両園が食育を様々な要素から成り立つプロジェクトと捉える試みは、職員間でこうした見方を共有・深化させる機会ともなろう。いいかえれば、食育を総合的な観点から計画、実践することにもつながるだろう。また、上矢部保育園は実行委員会制を採用し、0～5歳児までのクラス担当から1名ずつの参加に加え、事務室からも1名担当者を出し、計5名の実行委員体制を組織した。そして、実行委員会の第一の役割を、保育実践の場と給食室、事務室、市保育課の栄養士とのパイプ役と位置づけ、その連携に努めた。職域を超えた連携を促す試みとして、ひとつの可能性を示した体制づくりといえよう。さらに、上作延保育園は食育を主に担当する係を定めつつも、基本的に全職員で協議・検討する姿勢を重視した。

このように、4園は独自に食育を推進する体制づくりに努めた。一つとして、同じ体制を組織した園はないが、それだけ各モデル園が自園の状況、スタッフの質などを見極めた上での選択であったと思われる。いずれかに理想を求めることなく、自園にあったスタイルを模索し、それを定着させる中で得られたものが“わが園の理想である”といった姿勢が感じられる。

平成20年3月に改定された『保育所保育指針』では、告示化とともに大綱化を図った。つまり、細部にわたって内容を規定することはせず、各保育所の

創意工夫を期待しているわけである。そのため、保育の内容も発達過程区分別に示していない。こうした方向性は、『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針』においても採用されている。ただ、改定された『保育所保育指針』には、「健康及び安全」に関する内容として新たに「食育の推進」が示されてもいる。こうした状況を踏まえる時、改めて、各保育所は「食育の推進」を独自に構築しなければならない。言いかえれば、食育プログラムを独自に開発していく必要があるわけである。しかも、改定された『保育所保育指針』では、「乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに、その評価及び改善に努めること」も求めている。

こうした中、モデル園が食育と保育の連動を目指し、食育推進のための体制づくりを進めながら、食育プログラムの開発と実践の展開にあたったことは多くの示唆を与えよう。

最後に、こうしたモデル園の成果の中から、筆者らも開発にともにかかわり、0～5歳児までの月案例として整理した食育プログラムを巻末に資料として提示する。各保育所における食育プログラム開発の手がかりとしてほしい。

F. 研究発表

1. 学会発表

- 師岡章・酒井治子：保育所における食育プログラムの開発と評価－第1報 モデル園での食育プログラムの内容構成の特徴と課題，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007
- 清水祥子・廣瀬志保・師岡章・酒井治子：保育所における食育プログラムの開発と評価－第2報 そのプロセスと雑誌連載やホームページによる効果，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007
- 廣瀬志保・師岡章・酒井治子：保育所における食育プログラムの開発と評価－第3報 保護者の食意識・食態度と子どもの食事講堂の変化，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007
- 酒井治子・師岡章・堤ちはる・清野富久江：保育所における食育の計画づくりに関する全国的な動向，第54回日本栄養改善学会学術総会（長崎新聞文化ホール），2007
- 酒井治子・師岡章・針谷順子：自由集会IV 乳幼児

期の食育 栄養教諭・栄養士の役割を考える～保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の中で～, 第54回日本栄養改善学会学術総会(長崎新聞文化ホール), 2007

師岡章・酒井治子・廣瀬志保・金田利子: 保育所における食育のあり方を考える, 第17回日本乳幼児教育学会(東京学芸大学), 2007

飯田栄子・酒井治子・師岡章: 保育所における食育推進にむけた川崎市の体制づくり, 第53回日本栄養改善学会学術総会(つくば国際会議場), 2006

師岡章・酒井治子: 保育所における食育実践状況(第1報) 食育プログラムの様式にみる食育実践の位置づけと課題, 第53回日本栄養改善学会学術総会(つくば国際会議場), 2006

廣瀬志保・酒井治子・師岡章: 保育所における食育実践状況(第2報) 常勤栄養士の配置の有無による実践状況の違い, 第53回日本栄養改善学会学術総会(つくば国際会議場), 2006

師岡章: 保育所における食育カリキュラムの現状と課題—食育の視点を含んだ保育所の指導計画を中心に—, 第16回日本カリキュラム学会(東京学芸大学), 2005

師岡章・酒井治子・外山紀子・林薫: 乳幼児期における食育カリキュラムの開発—地域の農産物生産者との連携を軸として—, 2005年度食育実証研究発表会(東京国際フォーラム), 2005

2. 著作

保育所における食育計画研究会: 保育所における食育の計画づくりガイド, 2008, 児童育成協会

師岡章: 保育園・幼稚園の食育, 佐賀県栄養士会編, 食育活動実践の手引き 食で育む 生きるちから—実践編—, 2007, 農文協

師岡章: 師岡章総監修, 倉田新・徳永恭子・野村明洋, 食を育む—食育実践ガイドブック, 2006, フレーベル館

3. 雑誌寄稿

師岡章: 幼児の食育の考え方・組み立て方, 食生活, 102-1(全国地区衛生組織連合会), 2008

師岡章: レッツ食育, マザーブック あそぼ, 44-1~12(フレーベル館), 2007-2008

師岡章: 2歳児の食育, キンダーブックじゅにあ, 4-1~12(フレーベル館), 2007-2008

師岡章: 3歳児の食育, キンダーブック 1, 21-1~12(フレーベル館), 2007-2008

師岡章: 4歳児の食育, キンダーブック 2, 44-1~12(フレーベル館), 2007-2008

師岡章: 5歳児の食育, キンダーブック 3, 62-1~12(フレーベル館), 2007-2008

師岡章・野々下春子: 3歳児 月の指導計画と活動の実践・展開例, Nocco 4(1)-4(12), 42-45, 2007-2008, フレーベル館

師岡章: 新学期こそ見直したい 食事マナー・しつけ 指導の心がけ, 少年写真新聞 たのしくたべようニュース, 271(少年写真新聞社), 2007

師岡章: 2歳児の食育, キンダーブックじゅにあ, 3-1~12(フレーベル館), 2006-2007

師岡章: 3歳児の食育, キンダーブック 1, 20-1~12(フレーベル館), 2006-2007

師岡章: 4歳児の食育, キンダーブック 2, 43-1~12(フレーベル館), 2006-2007

師岡章: 5歳児の食育, キンダーブック 3, 61-1~12(フレーベル館), 2006-2007

師岡章・本橋幸子・根岸奈央・濱野朋子: 4歳児 月の指導計画と活動の実践・展開例, Nocco 3(1)-3(12), 42-45, 2006-2007, フレーベル館

師岡章: 〈誌上研究会 提案〉「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」について考える, 保育の実践と研究 9(4), 43-56, 2005, スペース新社

師岡章・浅生浩美・前田瑠梨子・野島あい子: 5歳児 月の指導計画と活動の実践・展開例, Nocco 2(1)-2(12), 42-45, 2005-2006, フレーベル館

師岡章: 地域の大人とのふれあいを通して乳幼児期に豊かな食育体験を, 食文化活動 40, 4-11, 2005, 農山漁村文化協会

師岡章: 保育所の食育活動～保育所の「食育指針」発表のその後, こどもの栄養 604, 2005, こども未来財団

〔資料〕 乳幼児の発育・発達段階に応じた食育プログラム例（文京保育園）

0歳児4月

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい環境に慣れ、心地よく生活する ・ 安心して食事をする 				
子 ど も の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい環境や人に不安を示し、泣いて授乳、食事ができない子どももいる ・ 月齢による発達差があり、生活リズムにばらつきがある ・ 好きなものを見つけると泣きやむ 				
ね ら い と 内 容	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="201 685 240 871">食</td> <td data-bbox="240 685 1416 871"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温かな雰囲気の中で、お腹が空いた時にゆったりと食事をして満足する ・ 乳（母乳・ミルク）を飲みただけゆったりと飲む ・ 乳以外の味に少しずつ慣れていく ・ いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう </td> </tr> <tr> <td data-bbox="201 871 240 1106">生 活</td> <td data-bbox="240 871 1416 1106"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい環境に慣れ、機嫌よく遊ぶ ・ 保育士に不安や要求を優しく受け止められ、安心して過ごす ・ 大人とのスキンシップ遊びを楽しむ ・ 探索遊びを楽しむ </td> </tr> </table>	食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かな雰囲気の中で、お腹が空いた時にゆったりと食事をして満足する ・ 乳（母乳・ミルク）を飲みただけゆったりと飲む ・ 乳以外の味に少しずつ慣れていく ・ いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう 	生 活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい環境に慣れ、機嫌よく遊ぶ ・ 保育士に不安や要求を優しく受け止められ、安心して過ごす ・ 大人とのスキンシップ遊びを楽しむ ・ 探索遊びを楽しむ
食	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かな雰囲気の中で、お腹が空いた時にゆったりと食事をして満足する ・ 乳（母乳・ミルク）を飲みただけゆったりと飲む ・ 乳以外の味に少しずつ慣れていく ・ いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう 				
生 活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい環境に慣れ、機嫌よく遊ぶ ・ 保育士に不安や要求を優しく受け止められ、安心して過ごす ・ 大人とのスキンシップ遊びを楽しむ ・ 探索遊びを楽しむ 				
指 導 上 の 留 意 点	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="201 1106 240 1429">保 育 者 の 援 助</td> <td data-bbox="240 1106 1416 1429"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭と連絡を密に取り、一人ひとりの生活リズムを把握する ・ 一人ひとりの発達に合わせた授乳量、食事の種類、食事の形態、量を把握する ・ 授乳時は担当保育士が目を合わせながら抱っこし、人のぬくもりや心地よさを味わえるようにする ・ 「おいしいね」「もぐもぐね」「ごっくん」などやさしい声かけをし、咀嚼や嚥下機能を促し、楽しい食事となるように配慮する </td> </tr> <tr> <td data-bbox="201 1429 240 1700">環 境 構 成</td> <td data-bbox="240 1429 1416 1700"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい家庭的な雰囲気の中で授乳や食事ができるようにする ・ 健康的で安全な中、一人ひとりの生活リズムを大切にしていける。また、安心してよく眠れるよう環境を整える ・ 探索行動を促すような環境づくりをしていく </td> </tr> </table>	保 育 者 の 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭と連絡を密に取り、一人ひとりの生活リズムを把握する ・ 一人ひとりの発達に合わせた授乳量、食事の種類、食事の形態、量を把握する ・ 授乳時は担当保育士が目を合わせながら抱っこし、人のぬくもりや心地よさを味わえるようにする ・ 「おいしいね」「もぐもぐね」「ごっくん」などやさしい声かけをし、咀嚼や嚥下機能を促し、楽しい食事となるように配慮する 	環 境 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい家庭的な雰囲気の中で授乳や食事ができるようにする ・ 健康的で安全な中、一人ひとりの生活リズムを大切にしていける。また、安心してよく眠れるよう環境を整える ・ 探索行動を促すような環境づくりをしていく
保 育 者 の 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭と連絡を密に取り、一人ひとりの生活リズムを把握する ・ 一人ひとりの発達に合わせた授乳量、食事の種類、食事の形態、量を把握する ・ 授乳時は担当保育士が目を合わせながら抱っこし、人のぬくもりや心地よさを味わえるようにする ・ 「おいしいね」「もぐもぐね」「ごっくん」などやさしい声かけをし、咀嚼や嚥下機能を促し、楽しい食事となるように配慮する 				
環 境 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温かい家庭的な雰囲気の中で授乳や食事ができるようにする ・ 健康的で安全な中、一人ひとりの生活リズムを大切にしていける。また、安心してよく眠れるよう環境を整える ・ 探索行動を促すような環境づくりをしていく 				
反 省	<p>はじめは慣れない園生活に泣く子どもが多く、食事の時間も、泣いてミルクや食事を受けつけないことがあった。園での生活に慣れてくると、笑顔で過ごせる時間も増え、食事も出来るようになる。つたい歩きや這い這いなど成長も違っているので、室内の環境設定に配慮した。離乳食や体の成長も様々なので子ども一人ひとりを把握し、安心して過ごせるようにした。</p>				

0歳児5月

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して生活できるようになり、泣いたり甘えたりすることで自分の要求を素直に出す ・ 一人ひとりのリズムや状態に合わせて食事をする 				
子 ど も の 姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空腹になるとぐずったり、大泣きする ・ 園生活にだんだんと慣れ、機嫌よく遊んだり、睡眠が取れ、よく食べられるようになってきた子どもが多い ・ 不安定で食事の時にいすに座れないこども、眠たすぎると食事を受け付けず、ミルクも飲めない子どもがいる ・ 自分の感情・要求をはっきりと出せるようになり、甘えて泣いたり、主張したり、自分の興味を持ったものに向かおうとする姿が見られる 				
ね ら い と 内 容	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="207 622 161 869">食</td> <td data-bbox="161 622 1396 869"> <ul style="list-style-type: none"> ・ お腹が空いた時に、タイミングよく食事にし、温かな雰囲気の中でゆったりと乳を飲んだり食事をする ・ 乳以外の味に少しずつ慣れ舌でつぶして食べることを経験する ・ 手づかみで食べることを喜び、歯茎や歯でかんで食べることを経験する ・ いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう ・ 食前に保育士と一緒に「きれいきれい、ごしごししようね」と声をかけられ手を洗う ・ 食前食後の挨拶を保育士が行うのを見る ・ 不安定で泣き、いすに座れない子どもは抱っこなど安定できるスタイルで食べ物を口にする ・ 食事の後は温かなタオルで口元や手を拭いてもらいきれいになった心地よさを味わう </td> </tr> <tr> <td data-bbox="207 869 161 1099">生 活</td> <td data-bbox="161 869 1396 1099"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる環境の中で機嫌よく遊ぶ ・ 不安や要求をやさしく受け止められ安心して過ごす ・ 保育士とのスキンシップ遊びや探索遊び、散歩など身体を動かす遊びを楽しむ ・ 調理員に少しずつ慣れる ・ 旬の野菜を見たり触れたりする（たけのこ、ふき、キャベツ、そらまめ、新ジャガイモ） ・ 散歩に行つて、春の自然を味わう ・ 幼児クラスが育てた園庭の野菜を見に行く（きゅうりの花、なすの花、トマトの花） </td> </tr> </table>	食	<ul style="list-style-type: none"> ・ お腹が空いた時に、タイミングよく食事にし、温かな雰囲気の中でゆったりと乳を飲んだり食事をする ・ 乳以外の味に少しずつ慣れ舌でつぶして食べることを経験する ・ 手づかみで食べることを喜び、歯茎や歯でかんで食べることを経験する ・ いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう ・ 食前に保育士と一緒に「きれいきれい、ごしごししようね」と声をかけられ手を洗う ・ 食前食後の挨拶を保育士が行うのを見る ・ 不安定で泣き、いすに座れない子どもは抱っこなど安定できるスタイルで食べ物を口にする ・ 食事の後は温かなタオルで口元や手を拭いてもらいきれいになった心地よさを味わう 	生 活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる環境の中で機嫌よく遊ぶ ・ 不安や要求をやさしく受け止められ安心して過ごす ・ 保育士とのスキンシップ遊びや探索遊び、散歩など身体を動かす遊びを楽しむ ・ 調理員に少しずつ慣れる ・ 旬の野菜を見たり触れたりする（たけのこ、ふき、キャベツ、そらまめ、新ジャガイモ） ・ 散歩に行つて、春の自然を味わう ・ 幼児クラスが育てた園庭の野菜を見に行く（きゅうりの花、なすの花、トマトの花）
食	<ul style="list-style-type: none"> ・ お腹が空いた時に、タイミングよく食事にし、温かな雰囲気の中でゆったりと乳を飲んだり食事をする ・ 乳以外の味に少しずつ慣れ舌でつぶして食べることを経験する ・ 手づかみで食べることを喜び、歯茎や歯でかんで食べることを経験する ・ いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう ・ 食前に保育士と一緒に「きれいきれい、ごしごししようね」と声をかけられ手を洗う ・ 食前食後の挨拶を保育士が行うのを見る ・ 不安定で泣き、いすに座れない子どもは抱っこなど安定できるスタイルで食べ物を口にする ・ 食事の後は温かなタオルで口元や手を拭いてもらいきれいになった心地よさを味わう 				
生 活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心できる環境の中で機嫌よく遊ぶ ・ 不安や要求をやさしく受け止められ安心して過ごす ・ 保育士とのスキンシップ遊びや探索遊び、散歩など身体を動かす遊びを楽しむ ・ 調理員に少しずつ慣れる ・ 旬の野菜を見たり触れたりする（たけのこ、ふき、キャベツ、そらまめ、新ジャガイモ） ・ 散歩に行つて、春の自然を味わう ・ 幼児クラスが育てた園庭の野菜を見に行く（きゅうりの花、なすの花、トマトの花） 				
指 導 上 の 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの発達や生活リズムを把握し心地よく生活できるよう援助していく ・ 授乳時や食事の際は担当保育士が目を合わせながら抱っこし、人のぬくもりや心地よさを味わえるようにしていく ・ 一人ひとりの生活リズムを捉え空腹を感じたときにタイミングよく授乳・食事ができるようにする ・ 食べ慣れない物は少量ずつつぶしたりして無理なく繰り返し与えていく ・ 「おいしいね」「もぐもぐね」「ごっくん」「にんじんよ」などやさしい声かけをし、咀嚼や嚥下機能を促し、楽しい食事となるように配慮する 				
留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気温の変化が激しいので水分補給や衣類の調節に配慮する ・ 温かい家庭的な雰囲気の中で授乳や食事ができるようにする ・ 健康的で安全な中、一人ひとりの生活リズムを大切にしていく。また、安心してよく眠ったり遊べるよう環境を整えていく ・ 一人ひとりの状態にあった食事の形態、食具・椅子の高さ、足を安定させるための台などを用意していく ・ 探索行動を促すような環境づくりをしていく ・ 歌遊び、手遊びを毎日取り入れていく 				
反 省	<p>全体として保育園生活に慣れ、とてもよく遊べるようになってきている。安心して自分を出せる分、今まで泣かずに我慢してきたことも担任を信頼して甘えて泣いたり、自分がやりたいことを主張したり、大人を選んだりすることが増えてきたので一人ひとりに合わせて対応している。食事や睡眠のリズムもつかめてきたのでよく食べられ、よく眠れ、遊べていることを思う。気温の変化で体調を崩す子どもが多いので配慮していく。</p>				

0歳児6月

目 標	<ul style="list-style-type: none"> 好きな遊びを保育士とともに楽しみ、機嫌よく過ごす 食事の時間を楽しみにし、喜んで食べる
子 ど も の 姿	<ul style="list-style-type: none"> 園生活に慣れ、生活リズムが整ってきた。機嫌もよく這い這い、伝い歩き、歩行で探索している おもちゃでよく遊ぶ。食事やミルクを見るととても喜ぶ 名前を呼んだり話しかけると声を出したり、笑顔でこたえたりする 歌遊び、手遊びを見たり聞いたりして反応する 友だちとの関わりも見られる 食事を期待して手を洗う際に自分で移動する
ね ら い と 内 容	<ul style="list-style-type: none"> お腹が空いた時に温かな雰囲気の中でゆったりと食事をしたり乳（母乳・ミルク）を飲む 食事の際は安定できる椅子（背もたれ、またベルト、腰の固定）に座って食べる 乳以外の様々な味に慣れ舌でつぶして食べる（低月齢） 手づかみ食べやフォークに刺してもらったものなどを自分で口に運ぶことを経験する 歯茎や歯で噛んで食べることを経験を重ねていく いろいろな食べ物を見たり触れたり味わう 食前食後の挨拶を保育士と一緒にやる 食事の後温かなタオルで口元や手を拭いてもらう
生 活	<ul style="list-style-type: none"> 安心できる環境の中で機嫌よく遊ぶ 不安や要求をやさしく受け止められ安心して過ごす 大人とのスキンシップ遊びを楽しんだりおもちゃや環境に興味を持ち、這い這いや伝い歩き、歩行にて探索活動を盛んにする 歌遊びや手遊びを楽しみ模倣する 調理員に少しずつ慣れる 調理室をのぞいて調理員に声をかけられたり調理の様子を見たり匂いを感じる 旬の野菜を見たり触れたりする（ふき、梅の実、新ジャガイモ、枝豆、アスパラ、なす、きゅうり、トマト、稲） 手先を動かして楽しむ 感覚遊びをする（小麦粉の感触、小麦粉粘土、新聞紙、水、太鼓の振動、ボールなど）
指 導 者 の 援 助	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに応じてよく遊び、よく眠り、よく食べられるよう援助していく 食べ慣れない物は少量ずつつぶしたりして無理なく繰り返し与えていく 声かけしたり、保育士と一緒に食事をするところを見せることで楽しい雰囲気を作り咀嚼や嚥下機能を促す 旬のものを敏感に捉え、子どもたちの様子を見ながら、五感を使って感じることを大切にする 気温の変化が激しいので水分補給や衣類の調節に配慮する
留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> 温かい家庭的な雰囲気の中で授乳や食事ができるようにする 体の発達や食べ方の発達にあわせたテーブルや椅子を常に検討し、食事の形態、食具も検討していく
反 省	<p>生活リズムが安定し、表情が豊かになる。喃語が聞かれるようになったり、歩行、つたい歩き、這い這いなどが増え、クラス内がとても賑やかである。喃語にはやさしく応え、歩行などについては、まだ不安定であるので環境設定にも十分配慮するようにした。園庭ではプランターの野菜や草花に興味をもち、保育士と一緒に匂いをかいだり、そっと触れてみたりすることもあった。体調を崩してしまう子どもも多かったので、家庭との連絡を密にし、視診も丁寧におこなうようにした。</p>